

春日部市包括的連携推進事業

春日部駅東口エリアにおける リノベーションまちづくりに関する研究

2019年度の活動成果と今後の展開

建築学科 教授

佐々木 誠

建築学科 准教授

木下 芳郎

●研究の目的

当エリアでは、春日部駅付近連続立体交差事業などの新たな都市基盤の整備が展開されていくが、それと併せて中心市街地を“活性化する取組み”も必要である。そこで、既成市街地にある空き店舗などの遊休不動産を活かし、エリアに新たな価値をつくりだし、まちを変えていく「リノベーションまちづくり」に関する研究を実施し、今後の当エリアのまちづくりに関する施策へと反映させていくことを目的とする。

●研究の内容

- ・当エリアにある歴史・文化・自然などの地域資源や、空き店舗などの遊休不動産を活用し、賑わいの創出と、併せて地域特性を活かした街みに整えていくための手法の研究
- ・地域資源や遊休空間を活用する民間の担い手づくりに関する研究

●その他特記事項

- ・「匠大塚 株式会社」と連携し、匠大塚春日部本店駐輪場の活用に関する社会実験を実施

● 2019年度の活動成果

- ・ 匠大塚春日部本店駐輪場の活用に関する社会実験
- ・ まち歩きワークショップの実施
- ・ 公民連携によるリノベーションまちづくりの担い手づくりに関する研究
- ・ 市民まちづくりサロン、しよう会での発表
- ・ いきなり懇親会への参加
- ・ 藤テラスの調査、次年度藤テラスへの参加
- ・ ゆかたでナイト、花植えの参加
- ・ ビジネスプランコンテスト応募
- ・ 政策提案コンテスト応募
- ・ 人口変化を考慮した施設の需要予測に関する研究

● 匠大塚春日部本店駐輪場の活用に関する社会実験

第3回(昨年)かすかベビジネスプランコンテストでの提案内容

匠大塚春日部本店
匠のフジダナヒロバ
日本工業大学 建築学科 木下研究室・小澤留博・吉田海斗

匠のフジダナヒロバ
フレッシュユースありの

▼現状

●敷地図

●所在地
春日部市粕壁車2丁目5-1

●いいところ

- ・藤棚がある
- ・自然豊かで眺めの良い大塚古利根川がある
- ・川沿いを日常的に利用する歩行者が多い
- ・交通量が比較的少なく落ち着きがある

●もったいないところ

- ・駐輪場利用者は少ない
- ・フェンスで囲われていて入りづらい

●活用案

駐輪場を覆う見事な藤棚

駐輪場利用者は少ない

フェンスで囲われて入りづらい

藤棚の下を休憩所に

フェンスを撤去して入りやすく

キッチンカーで川沿いの人を呼び込む

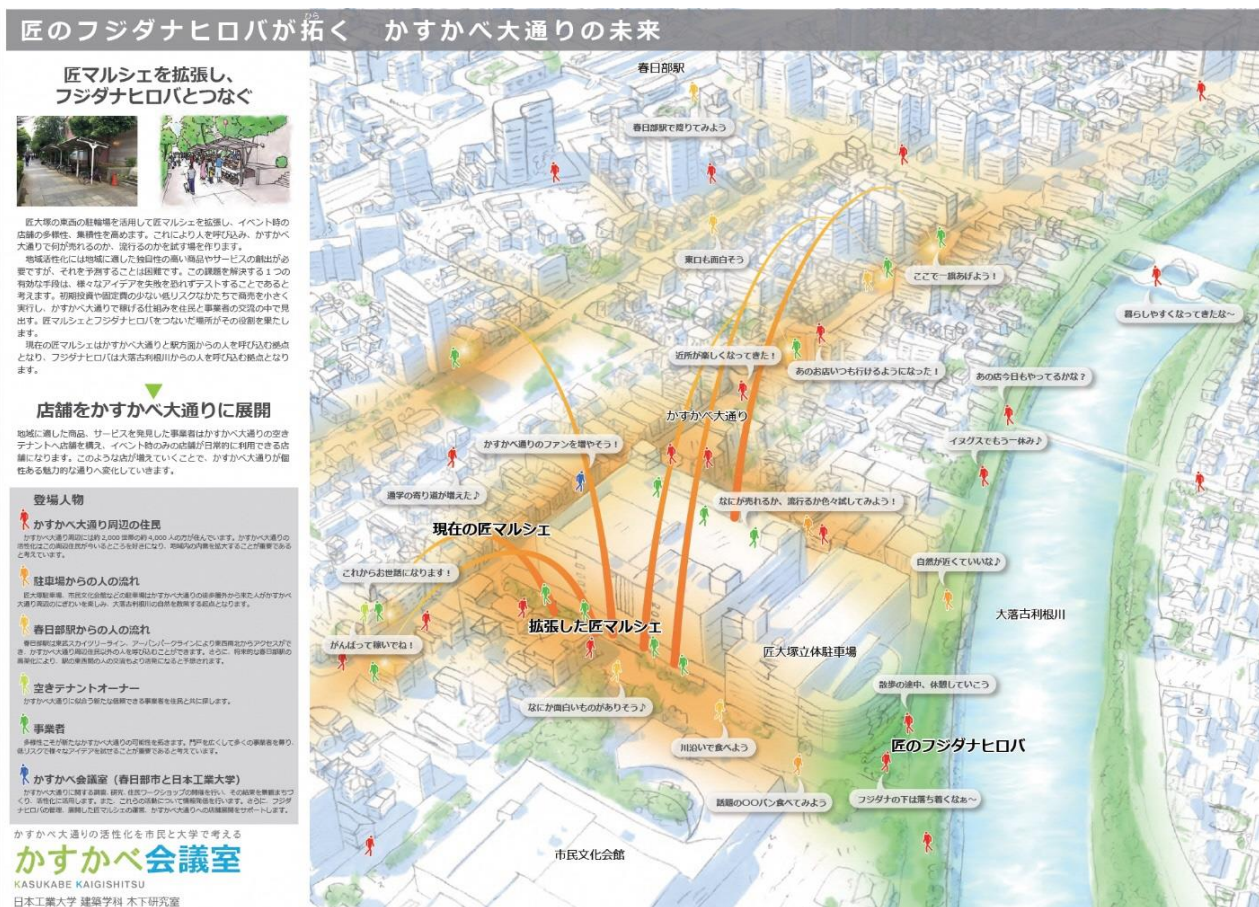
●目的

匠大塚春日部本店敷地内の川沿いに面する駐輪場を活用し、市民が集う公共的な広場を創出する

●活用案の実施プロセス

- ①フェンスを撤去
 - ・駐輪場の閉鎖感をなくす
 - ・誰でも気軽に入りやすくなる
- ②学生がベンチやテーブルを製作し設置
 - ・川沿いを散歩する人の休憩とコミュニケーションの場を提供する
 - ・学生の実習成果を実社会で活用する
- ③定期的に移動販売車を設置
 - ・匠マルシェと連携して川沿いへかすかベ大通りの回遊性を高める
- ④ドリンクスタンドを設置
 - ・散歩、通学時の途中に立ち寄り、日常的に人が集う場所をつくる

第3回（昨年）かすかべビジネスプランコンテストでの提案内容



上記のアイデアを駐輪場所有者である
匠大塚株式会社に提案し、使用許可が得られた

●実施スケジュール案（2019年6月当時）

凡例

- : 匠マルシェ等で一時的に実施
- : イベントとは別日程で実施
- : 継続して実施
- : 依存関係(矢印の元を実施してから実施)

内容	No.	スケジュールのめやす										
		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
テーブル・椅子のデザイン・配置アイデア出し	1	●	●	●	●							
ノベルティグッズ作成	2	○										
テーブル・椅子設置	3		●	●	●	→	—	—	—	—	—	—
利用状況調査	4		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ドーム設置	5		●	●	●							
活動掲示板設置	6		●	●	●	●	—	—	—	—	—	—
キッチンカー、屋台で販売してほしいもののアンケート	7		●	●								
正式名称、ロゴデザイン意見聞いて作成	8		●	○								
サイン設置(禁煙、ゴミは持ち帰る等)	9		●	●	●	●	—	—	—	—	—	—
藤の枝手入れ	10		○									
環境計測	11		○	—	—	—						
屋台(屋根つき棚)での店舗営業	12			●	●	●	●	●	●	●	●	
テーブル・椅子の組み立て、色ぬりWS	13			●								
フェンス撤去	14				○	→						
キッチンカーでの店舗営業	15					●		●				●
夜間照明整備	16				○							
防犯カメラの増設、火災報知器、防犯ブザーの設置	17				○							
藤棚フレームメンテ	18						○	○				
東側駐輪場、西側フジダナにもテーブル、椅子を設置	19						●	●	●	●	●	●
東側駐輪場、西側フジダナに屋台を設置	20											●
床舗装改修	21											○
藤の根元手入れ	22											○

- ・ 地域の方が計画時点から参加する機会を多く設ける
- ・ 少しずつ実施して計画を見直すプロセスを盛り込む

● 模型展示と家具レイアウト（6月30日）

匠大塚さんの駐輪場を
自分のアイデアで休憩所してみよう

会場：ギャラリーいぐさ（匠大塚春日部本店正面広場の向かい）
日時：6月30日（日）10:30-13:00（Takumi マルシェと同じ日程）
時間内であればいつ来ても大丈夫です ちょっとのそくだけでも大歓迎です



匠のフジダナヒロバ

参加いただいた方には
ノベルティグッズを差し上げます

かすかべ会議室（日本工業大学と春日部市都市計画課）では、匠大塚春日部本店にある川沿いの駐輪場を休憩所として活用する準備を進めています。みなさんも模型を使って休憩所の家具レイアウトなどを自分好みにデザインしてみませんか？ 参加いただいた方にはノベルティグッズをプレゼントします。Takumi マルシェのついでにぜひ気軽にお立ち寄りください。

かすかべ大通りの活性化を市民と大学で考える
かすかべ会議室
KASUKABE KAIGISHITSU



- 模型を使って匠のフジダナヒロバの家具レイアウトを
実際にやっていただき、デザインのアイデアを募集する

● フェンス撤去等の作業・ベンチ展示（7月25-28日）

**匠大塚さんの駐輪場フェンス
本当にぜんぶ抜く大作戦**

会場 1（雨天中止） 匠大塚春日部本店川沿い駐輪場
会場 2（雨天でも行います） ギャラリーいぐさ（匠大塚春日部本店正面広場の向かい）
日時（Takumi マルシェと同日程） **7月28日（日）10:30-13:00**
時間内であればいつでも大丈夫です ちょっとのぞくだけでも大歓迎です



かすかべ会議室（日本工業大学と春日部市都市計画課）では、匠大塚春日部本店にある川沿いの駐輪場を休憩所として活用する準備を進めています。今回は実際に設置したベンチに座りながらフェンスの撤去作業をご覧ください、景色が変わる様子を体験いただけます。先月と同様に、ギャラリーいぐさでは模型を使って休憩所のレイアウトデザインをしていただけます。Takumi マルシェのついでに気軽にお立ち寄り下さい。

かすかべ大通りの活性化を市民と大学で考える
かすかべ会議室
KASUKABE KAIGISHITSU

参加いただいた方には
ノベルティグッズを差し上げます

<https://www.facebook.com/kasukabekaig2018/>
問合せ先：春日部市都市整備部都市計画課 048-736-1111（内線 3517）



- ・ フェンス撤去の作業のイベント化
- ・ 実際にベンチを設置して使い勝手などの意見を得る

●ベンチ色塗りイベント（8月25日）

匠大塚さんの駐輪場に置く
ベンチをみんなで色塗りしよう

会場 1 (雨天中止) 匠大塚春日部本店川沿い駐輪場
会場 2 (雨天でも行います) ギャラリーいぐさ (匠大塚春日部本店正面広場の向かい)
日時 (Takumi マルシェと同日程) 8月25日(日) 10:30-13:00
時間内であればいつ来ても大丈夫です。ちょっとのそくだけでも大歓迎です



かすかべ会議室 (日本工業大学と春日部市都市計画課) では、匠大塚春日部本店にある川沿いの駐輪場を休憩所として活用する準備を進めています。今回は設置するベンチの色塗りを現地でいきます。みなさんも一緒に参加してみませんか。ギャラリーいぐさでは模型を使って休憩所のレイアウトデザインをしていただけます。Takumi マルシェのついでに気軽に立ち寄り下さい。
かすかべ大通りの活性化を市民と大学で考える
かすかべ会議室
KASUKABE KAIGISHITSU
https://www.facebook.com/kasukabekaig/2018/05/25
問合せ先：春日部市都市整備部都市計画課 048-736-1111 (内線 3517)
※「かすかべ会議室」は、活動の体制と内容のリニューアルにあわせて、近日中に名称を「かすかべ会議」へ変更します。



かすかべ会議室 (Facebook) での反応

	リーチ数	エンゲージメント数
2019/6/30	50	16
2019/7/28	57	39
2019/8/25	324	50

- ベンチの量産（18台）
- ベンチの色塗り作業を地域の方と一緒にやる

●かすかベシネマでのベンチ設置（10月5日）

匠のフジダナヒロバの いごこちを体感してみよう

会場 匠大塚春日部本店川治い駐輪場（春日部市粕壁東 2-5-1）

日時1 10月 5日（土）12:00-16:30（かすかベシネマと同日程）

日時2 9月 29日（日）10:30-13:00（Takumiマルシェと同日程）

時間内であればいつでも大丈夫です ちょっとのそくだけでも大歓迎です



8月に皆さんとベンチの色塗りを行い、匠のフジダナヒロバとして利用していただく準備がいよいよ整いつつあります。10月5日（土）には、開催される「かすかベシネマ」のスタンプラリーのポイント会場を兼ねて、匠サローネによるドリンク販売、キッチンカーによる軽食販売を行います。ギター演奏も企画中です。チラッとのそくだけでも、お弁当、飲み物を持ち込んでじっくり過ごしていただいても結構です。ぜひお越しいただき、今後に向けて感想、ご意見をお聞かせください。9月29日（日）はベンチの配置のみ行いますが、休憩、飲食スペースとして利用できます。

かすかベ大通りの活性化を市民と大学で考える

かすかベ会議室

KASUKABE KAIGISHITSU

かすかベ会議室

<https://www.facebook.com/kasukabeikaigishitsu/>

問合せ先：春日部市都市整備部都市計画課 048-736-1111（内線 3517）



- ベンチ、キッチンカー、屋台、ギター演奏といった完成形を示す

●まち歩きワークショップの開催（5月25日）

痕跡から過去を知る/兆しから未来を拓く

まち歩き：春日部駅東口エリア

■ワークショップの概要

令和元年5月25日(土)、かすかべ大通りに詳しい方々を講師に招き、私たち日本工業大学建築学科佐々木研究室、木下研究室、片岡研究室と春日部市職員の方の約40名でまち歩きワークショップを行いました。前半の部では春日部市教育センターを起点にまち歩きを行いました。まち歩きでは、地域資源と言えそうな場所や気になる場所を発見した際には撮影し、地図にプロットしていきました。普段は気づけないような場所でも、講師の方に解説していただきながら見ること、歴史や文化、自然の価値がある場所を多く見つけることができました。後半の部では匠大塚のイベントスペースをお借りしてまち歩きの結果をグループごとにまとめ、その結果を発表するワークショップを行いました。まち歩きで撮影してきた場所を「地域らしさ」、「過去の痕跡（歴史的背景）」、「未来への兆し（使い方）」、「その他（当てはまらない場合）」にまず分類した上で、キーワードでまとめて整理しました。グループに分けることでかすかべ大通り周辺の特徴を知り、また、リノベーションまちづくりに繋がりそうな場所やアイデアが出てきました。各グループの発表では、講師の方やゲストの方にコメントや解説をいただき、まち歩きをした場所についての理解を深めることができました。

●調査する敷地

大落古利根川と春日部駅を通る線路に挟まれた地域を調査地域としました。この地域は旧日光通中として宿場が数多くあった春日部大通りと学生の登下校として利用される学校通りの2つの大きな道路が東西に通っており、中心市街地としての役割を担っています。また、場所によってマンション開発が進んでいたり、空きテナントが目立ったりと異なった特徴が見受けられます。

今回は調査地域を6エリアに分け、班ごとに担当のエリアを決め、街歩きを行いました。エリア分けした地図を図1に示します。



図1：調査地域のエリア分け

●当日の流れと内容

郷土資料館>ミーティング>まち歩き>ワークショップ>発表会

・郷土資料館

最初に春日部市教育センター内にある郷土資料館を見学し、春日部市の歴史について教えていただきました。昔の春日部市の街並みを再現した大きな模型が展示されていて、調査地域の昔の姿をイメージすることができました。また、模型をもとに宿場町として栄えていたことや現在も残っている神社などの歴史を感じさせる建築物について学ぶことができました。



・ミーティング

郷土資料館の見学後、春日部市教育センターのエントランスでミーティングを行いました。まち歩きの説明の後、講師の方々に自己紹介をしていただきました。講師の方の多くは何十年と春日部に住んでおり、各々の春日部に対する思いが伝わってきました。



・まち歩き

各班、調査するエリアを中心にまち歩きを行いました。日差しが強く夏を思わせる天気でしたが、「かき氷屋さん」や「せいご食堂」などで休憩を取りながらエリアをくまなく歩き、街の魅力となりうる地域資源を沢山発見することができました。また、講師の方から普段気が付かないことや昔の話を教えていただき、より春日部の知識を深めることができました。



・ワークショップ

「地域らしさ」、「過去の痕跡（歴史的背景）」、「未来への兆し（使い方）」、「その他（当てはまらない場合）」の4つをもとに色別の付箋へキーワードを書き出し、班員で意見を共有しました。また、撮影してきた写真の場所を地図上にプロットしました。そして、それらをもとに班員と協力し、発表資料を作成しました。

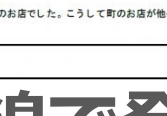


・約40名でまち歩きとワークショップを行った

●まち歩きワークショップの開催（5月25日）

・発表会

ワークショップでまとめた内容を発表し、講師の方から講評をいただきました。各班、沢山の地域資源を発見でき、充実した発表会となりました。発表と講評のまとめを図2に示します。また、図3は各写真を撮った場所をプロットした地図です。

市民文化会館や図書館、学生通りの存在や集合住宅が密集していることから小さい子どもを持つ家庭が過ごしやすい地域であることがわかりました。 また、図書館には地域の方がボランティアで手入れを行っている花壇があります。水やりをしていると図書館利用者と会話が生まれたり、新しい花の苗を持ってきてくれるなど、この花壇から地域の同士のつながりが生まれていることもわかりました。		
市民文化会館には菜園があります。当時は様々な菜園が植えられていることでとても有名でした。「吉田様」		
周辺地域が開発されていく中で、取り残された農路地帯を発見しました。隣接するようにひっそりと存在する農路地帯には遠くにつれて農のありさまが広がり、引き付けられるものがありました。 また、最先で植栽されている住宅が多く、様々な種類の植物を愛していることがわかりました。この農路地帯の魅力を残していくべきだと感じました。		
今まで注目しなかった農路地帯に着目したのはとても面白いと感じました。質問なのですが、どのような活用方法があるとおもいますか？「香田様」→A、農路地帯をメインとした散歩コースをつくるのも面白いと思います。		
音楽でつながる商店街通りは活気がなくなってしまっていました。なので、私たちの班では、商店街の賑わいを復興させようという案が出ました。 また、川沿いに店が1つもなく、もっと川を活かした地域の復興をしたいという意見も出ました。		
地元で有名なお花畑さんの花畑さんがあります。店主の方は、エイサー祭りの仕掛け人の1人だそうです。地元のイベントの仕掛け人を増やしていけば、まちが活性化していくと思います。 また、アート彫刻が多くみられ、まちをあげて芸術に力を入れていることがわかりました。		

かすかべ大通りにつながる農道に昔ながらの歴史的な風景と自然を感じる工夫がありました。蔵や倉の改修、山中千手観音堂、船登神楽など数多くの昔の風景が残っていました。またこのエリアはせせらぎ歩道や緑地、市民公園など自然を大切にしている心地の良い場所になっているという気持ちで伝わる場所でした。		
昔ながらある蔵など歴史的なものだけでなく、私にも知らない水車公園、またOGPAさんを見つけてくれたことはうれしいです。このエリアは自然が大事にされている場所としてポテンシャルを感じるので、活用していきたいです。「石川様」		

図2：発表と講評のまとめ



図3：各写真を撮った場所をプロットした地図

●最後に

今回の春日部まち歩きワークショップでは、講師の方々の知識と学生の若者の意見を組み合わせることで春日部の地域資源の整理・新しい発見・情報の共有をすることができました。そして、春日部には多くの地域資源が残っているということがわかりました。地域資源とは場所や建物だけではなく、今回参加していただいた講師の方々のような春日部を思う人々も大きなまちの財産だと感じました。

最後に参加していただいた講師・春日部市役所の皆様、本当にありがとうございました。



・学生が目線で発見した地域資源について講師の方にその場所の歴史などを解説していただき、今後の活用・維持方法などについて議論することができた

●公民連携によるリノベーションまちづくりの担い手づくりに関する研究

公民連携によるリノベーションまちづくりの実施プロセス
～かすかべ大通り周辺地区を対象として～

①、研究概要

コミュニティ組織と行政の関係に関するアンケート結果では、住民と行政の共同・協働事業を増やしていきたいという意向が高いとされている。春日部市では、かすがが大通り周辺地区景観まちづくりプランが策定され、プランに沿ったまちづくりの活動が動きだしている。本研究では、市民連帯によるリノベーションまちづくりの将来の可能性や課題について考察することを目指し、かすがが大通り周辺地区の現状及び、エリアにおける行政と市民の連携による活動の実施プロセス、エリアにおける行政と市民、大学が連携する「かすがべ会議」実施におけるプロセス、市民と行政が連携するこ

2. かすかべ大通り周辺地区の現状 かすかべ大通り周辺エリアの現状として、自然や空き家などを利用したまちづくりや駅周辺の活性化や利便性の向上を目指し、中心市街地として都市機能の集約を図っていた。また、市民参加の景観形成を図り、大学や市民と連携し、まちの活性化を景観としていた^{資料2}。

3. エリアにおける行政と市民の連携による活動の実施プロセス 各事例の実施プロセスと比較すると、行政、市民、大学が企画・運営や推進など全てを一緒に行っている事例はあったが、一部だけ公民学が協力・連携で行っている事例はあった(表2)。近隣のジグザグロボでは、大学と行政が、主催者と連携し、企画・実施を行い、複数回開催することにより、参加者である市民が協力者となり、公民学の連携した活動が行われていた^{資料2} (図1)。

いきなり懇親会では、懇親会の参加者である公民党によるプレゼンテーションを通して交流することにより懇親会外における事業やプロジェクトに発展し連携につながっている(図2)。いきなり懇親会の改善すべき点では、「特になし」が1番多かった。また、他の意見として、「参加者を増やす」、「告知方法を増やす」、「開催頻度を増やす」、「告知された情報を増やす」などが挙げられている(図3)。いきなり懇親会での望む情報発信の方法では、「Facebook」が一番多かった(図4)。また、いきなり懇親会では、Facebookにて情報発信を行っている。

4. エリアにおける行政と市民、大学が連携する「かすかべ会議」実施に向けたプロセス 景観まちづくりプラ

に記載された「かすかべ会議」では、エリアの未来を考
える様々な立場の人や団体が集まるコミュニティとし
て想定され、今年度（令和元年）に実施するとされてい
たが、春日部市の内部の調整がうまくいかず、次年度（令
和2年）の実施に向けて、打合せと勉強会が行われた。
行政と市民、行政と大学の連携への課題では、行政との

表 1 調查概要

対象	調査方法	内容
参事会議員及び市議員等 市議会議員 (市議会議員選挙区) 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区	対面式での聞き取り調査	市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区
市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区	資料調査	市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区
市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区	電話調査	市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区
市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区	アンケート調査	市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区 市議会議員選挙区

表2 エリアにおける事例の実施プロセス比較表

[illegible]

協力



図2 いきなり懇親会の連携実施のプロセス

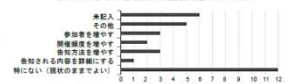
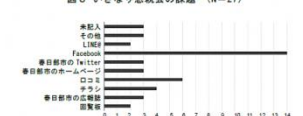


図3 いきなり懇親会の様子 (N=27)



1. 本報は、新聞記者の職業倫理を、新聞記者の職業意識の向上に資する。

意見に大きな相違があった(図5、図6)。また、市民と大学と行政が連携するためのコミュニティあるいは協議会に期待することでは、三者共に共通した項目が多かった(図7)。

5. 市長と行政が連携するまちづくりの事例の表とグラフを、各事例の実施プロセスと比較すると、行政、市民、大学が企画、運営や準備など全て一緒にやっている事例はほとんどなかった。一部だけが市民が協力・連携している事例はあった。宮代2.0以外の事例では、行政が情報発信の一部を行っている。また、宮代2.0だけが企画の段階から官民学が関わっている（表3）。宮代2.0では、コミュニティである町民と大学が協力して、町を企画・実施し、その結果から、参加者の意見と意見を、フィードバックすることによって成果に参加者の意見を反映させていた。^{※13}（図8）宮代2.0の改善すべき点では、「告知方法を増やす」が一番多く、次に「参加者を増やす」だった（図9）。宮代2.0での望む参加の方法では、Facebookが一番多かった（図10）。また、宮代2.0では、Facebookにて情報発信を行っている。

ら、市民の集まりが大通り周辺地区では、中心市街地として都市機能の集約が図られ、市民と連携したまちの活性化を図ってきた。事例の背景には、市民と行政との近距離のつながりによって、複数の関係により、参加型協働が生まれることによって、協働・連携に繋がっていた。いくなり懇話会では、参加型市民にプレゼンテーションを通じて交通について、懇話会からの連携へ発展していった。官庁2.0では、参加型意見をフィードバックすることによって、参加者の意見の反映が図られていった。これらより、参加型市民の工夫により連携へ発展する可能性があると考えられ、「何かか会議」を実施に向けたプロセスでは、今年度には「何かか会議」を実施する予定だが、春日市市民の内部の調整がまだ行われ、本年度に実施に向けて打合せと勉強会が予定されている。情報発信に関しては、いきなり懇話会、官庁2.0どちらもFacebookへの要望が多く、情報発信に課題があるといえる。大学と市民が行政との連携の課題について、3者の意見と大きな相違があった。三者以上の協力には、立場や意見の違いが有害なため、協力から連携へ発展させるためには、区役を重んじるのが文化でないと考えられる。



図6 行政と市民との連携の課題 図7 かすかべ会議への期待

名称	さいたま市 市民生活推進 委員会	としま 会議	としまでなし 会議	宮代2.0
所属	行政 市長	行政 市長	行政 区長	行政 町長
企画	○			△
情報発信	○			○
準備			○	
実施			○	
参加	○	○		○
まとめ				

100

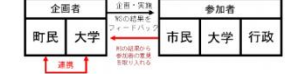


図8 宮代2.0の連携実施のプロセス

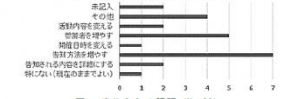


図9 宮代2.0の課題 (N=20)

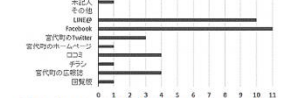


図 10 宮代 2.0 参加者が望む情報発信の方法 (N=20)

注：公民連携によるリノベーションまちづくり：行政と市民等が連携し、空間資源や人材の発掘などの活動を通して、まちの活性化を図ること。

参考文献
資料1：春日都市HP <http://www.city.kasukabe.lg.jp/>
資料2：小澤智博 吉田海斗『匠のフジダネヒロバ』説明資料(A1)最終版
日本工業大学工学部建築学科 本下研究室
資料3：宮代2.0 Facebook
<https://www.facebook.com/みやしろ20-1151349165023653/?pa=SEARCH>

- ・ 複数回の開催により協力・連携に繋がっていくと
いった、活動内容と担い手づくりの関係をとらえた

●リノベーションまちづくりに向けた人口変化を考慮した必要施設の研究

住民の人口構成と生活行動の変化を考慮した地域施設の需要予測

1. 目的

首都圏近郊に位置する多くの市街地では、人口構成の変化、価値観の多様化、産業構造の変化によって地域に必要なとされる施設、サービスを捉えることが難しい状況であり、これが空き店舗増加などの課題の原因の1つとなっている。本研究では図1に示すように地域の人口構成と人口変化から将来の人口構成を予測し、さらに生活実態データから地域住民の生活行動を把握した上で、人口構成と地域住民生活行動の両面から地域に需要のある施設やサービスを予測することを目指す。

2. 対象地域の特徴

本研究では図2に示した粕壁地域を調査対象とする。粕壁地域の概要を表1に示す。本地域は旧日光街道の宿場町として栄え、現在では東武伊勢崎線と東武野田線が交差する春日部駅が鉄道交通の要衝となっている。春日部駅を中心に行政、商業、教育など様々な機能が集中しており春日部市の中心的な市街地を形成している。しかし、現状では空き店舗や空き家の増加と共に高層マンションの建設による人口構成の変化が著しい。そのため地域住民の生活実態を把握し、必要とされる施設、サービスが把握しづらい状態である。

3. 将来の人口予測

3-1 将来の人口予測のプロセス

将来の人口を予測するために、図3に示すように「社会増減」「自然増減」「加齢」を考慮して計算を行う。社会増減は国勢調査データから得られた過去の転入者数、転出者数を対応する人口に対する比率として求めることで、将来の社会増減の推計に使える転入率、転出率が得られる。求めた転入率を図4、5に示す。男女ともに20～29歳を中心に転入率が高く、5～9歳の転入率も高いことから、20～30代を親世代とした家族の転入が多く考えられる。粕壁東を中心に高層マンションが多く建てられているのが要因の一つと考えられる。自然増減については国勢調査データから粕壁区を包含する地域についての死亡率、出生率を利用し求める。死亡率を図6に、出生率を図7に示す。死亡率は65～69歳から増加していき、男性の方が死亡率が高いことがわかる。出生率は25～34歳を中心に高いことがわかる。

3-2 将来の人口予測結果

社会増減と自然増減に変化はないと仮定し、粕壁地域のR1(令和元年)を基準として、R6(令和6年)の5年後とR11(令和11年)の10年後の人口予測を行った。粕壁地域では全体的に見ても総人口が増加傾向にある。人口予測を図8に示す。男性は10～49歳、70歳以上の人口が増えていくことがわかる。特に30～39歳は現在R1



図1 本研究の全体構成



図2 対象地域「粕壁地域」

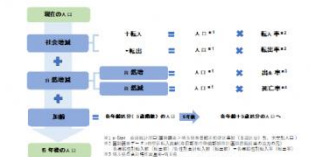


図3 将来の人口推測の流れ

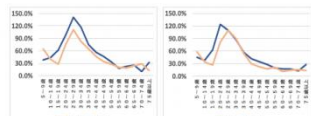


図4 転入率(男)

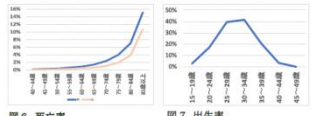


図5 転入率(女)

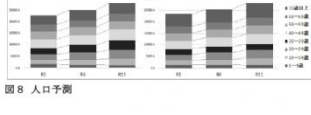


図6 死亡率



図7 出生率

図8 人口予測

からR11には1000人以上増える予測となり、全年齢で見ても最も人口が増えることになる。次に人口予測(女)を見ていく。10～24歳、40～49歳、75歳以上の人口が大きく増えていく。特に20～24歳は1000人以上増える予測になり、全年齢で見ても最も人口が増えていく。

4. 地域住民の生活実態

需要のある施設を予測するため、総務省統計局「平成28年社会生活基本調査」から粕壁地域住民の生活実態を把握する。年齢による行為率が特徴的な「ウォーキング・軽い体操」「パソコンなどの情報処理」を図9、10に示す。図9の「ウォーキング・軽い体操」では年齢が上がるにつれて行為率が上がる。図10の「パソコンなどの情報処理」では20代の行為率が高くなり以降は下がらずに15%前後を保っていることがわかる。これらを含む「学習・自己啓発」「ボランティア活動」「スポーツ」「趣味・娯楽」「旅行・行楽」からそれぞれの行為率と人口予測結果を掛け合わせて行動者数を求めた。

「ウォーキング・軽い体操」の行動者数を図11に示す。年齢が上がるにつれて行動者数が高くなる。将来の行動者数を見ても男女ともに20～40代を中心に行為者の増加傾向にあることがわかる。

「パソコンなどの情報処理」の行動者数を図12に示す。R1時点の行動者数は10代を除いた他の年齢の間には大きな差はない。将来に向けて若年層の行動者数が大きく増加していき、中年層も若干だが増加傾向にある。

5. 需要の高い施設の考察

求めた行動者数と粕壁地域のまちづくり方針や現状の整備状況を考慮し需要のある施設などを提案する。

一つ目は「ウォーキング・ランニングコース・運動器具・休憩場の整備」である。春日部市都市計画マスタープランの粕壁地域緑地空間整備の一つに「河川沿いに安全で快適に散策できる空間の整備を図り、ジョギングコースを設ける...市民の憩いの場の形成...」と挙げているが、現在の粕壁地域では、ウォーキング・ランニングコースが整備されている公園はなく、ウォーキング・ランニングが多く見受けられる古利根川の土手沿いも街灯が少なく、休憩場となるベンチがあっても水飲み場や日差しを遮る屋根などが多くあるとは言えない。

次に提案するのは「パソコンなどの情報処理に関する教室」である。粕壁地域にはパソコン教室が5カ所あることから、有償ならば情報処理の勉強ができるのが現状である。中央図書館に無料で利用できるパソコンは3台しかなく、申込制で利用制限時間が30分以内と設けられている。また情報処理を勉強する目的用としては設置されていないことや、春日部市では情報処理に関する講習等は開催されていない。

「ウォーキング・ランニングコースの整備」「パソコンなどの情報処理に関する教室」を含む需要のある施設の提案を表2に示す。

6. まとめ

本研究では将来の人口構成の予測から、地域に必要な施設、サービスを考察した。調査対象地域である粕壁地域では全体的に見ても粕壁地域の人口は増加傾向であり、特に男性の40歳前後と女性の20代前半が多く増えていく。その人口予測と生活実態データから地域に必要な施設とサービスを考察した。粕壁地域では「ウォーキング・ランニングコースの整備」や「パソコンなどの情報処理に関する教室」などが挙げられた。

既存データによる人口予測と生活実態データを使った本研究の方法により、地域住民にアンケートを取らずに地域に需要のある施設、サービスを検討できる。

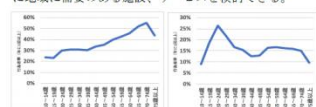


図9 ウォーキング・軽い体操

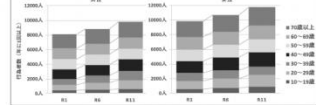


図10 パソコンなどの情報処理

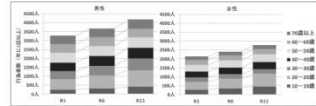


図11 ウォーキング・軽い体操の行動者数

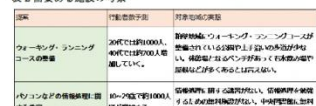


図12 パソコンなどの情報処理の行動者数

表2 需要のある施設の考察

施設	行動者数予測	対策を講じる必要性
ウォーキング・ランニングコースの整備	20代では約1000人、40代では約1000人、75歳以上では約1000人、合計約3000人。	粕壁地域のウォーキング・ランニングコースが整備されていない。河川沿いに安全で快適に散策できる空間の整備を図り、ジョギングコースを設ける...市民の憩いの場の形成...と挙げられているが、現在の粕壁地域では、ウォーキング・ランニングコースが整備されている公園はなく、ウォーキング・ランニングが多く見受けられる古利根川の土手沿いも街灯が少なく、休憩場となるベンチがあっても水飲み場や日差しを遮る屋根などが多くあるとは言えない。
パソコンなどの情報処理に関する教室	約1000人。	粕壁地域にはパソコン教室が5カ所あることから、有償ならば情報処理の勉強ができるのが現状である。中央図書館に無料で利用できるパソコンは3台しかなく、申込制で利用制限時間が30分以内と設けられている。また情報処理を勉強する目的用としては設置されていないことや、春日部市では情報処理に関する講習等は開催されていない。
子育て支援イベント	約1000人。	粕壁地域には子育て支援センターが1カ所あり、子育て支援センターに無料で利用できるパソコンは3台しかなく、申込制で利用制限時間が30分以内と設けられている。また情報処理を勉強する目的用としては設置されていないことや、春日部市では情報処理に関する講習等は開催されていない。
まちづくりイベント	約1000人。	粕壁地域にはまちづくりイベントが1カ所あり、まちづくりイベントに無料で利用できるパソコンは3台しかなく、申込制で利用制限時間が30分以内と設けられている。また情報処理を勉強する目的用としては設置されていないことや、春日部市では情報処理に関する講習等は開催されていない。

【参考資料】
1) 総務省統計局「平成28年社会生活基本調査」
2) 総務省統計局「平成28年社会生活基本調査結果」

【謝辞】
本研究の人口予測データの提供にご協力いただいた春日部市都市計画マスタープラン策定推進事務局の方々に感謝申し上げます。

・将来の人口構成の予測、生活実態調査から地域住民の生活行動者数を把握し、対象地域に応じた施設を提案

●メディアでの活動紹介

- ・春日部経済新聞 2019年8月23日
- ・日本工業大学通信 令和元年11月1日
- ・読売新聞 2019年11月22日
- ・広報かすかべ 2020年3月1日

広報かすかべ 2020年(令和2年)3月1日(日) P15



官民学が連携し、
駐輪場を市民の憩いの場にリノベーション

市では日本工業大学と連携し、匠大塚株式会社（株）の協力のもと、匠大塚春日部本店の駐輪場(約270平方メートル)の有効活用に関する社会実験を行っています。これまでに、駐輪場周りのフェンス撤去やフジの剪定、清掃を行い、また学生が制作したベンチを設置するなど、“日常的に集える空間づくり”に取り組んできました。

大落古利根川の遊歩道沿いにあるこの場所は、春には桜と川のきれいな景色を楽しむことができます。皆さんもぜひお寄りください。



日本工業大学との取り組みの様子



● 今後の課題・展開

- ・ 匠のフジダナヒロバの安全性・利便性・快適性の向上
- ・ 休憩所や創業支援の場を川沿いの駐輪場以外へ展開
- ・ 地域活性化に向けた定期的なイベント開催
- ・ 既存イベントと協同した活動
- ・ 官民学が連携した組織の形成、民間プレイヤーの発掘

6大通りと川を結ぶ駐輪場を創業支援のためのマルシェにしよう

